

流産手術をお受けになる方へ



流産手術スケジュール

経過項目	手術までの間	入院日(手術前処置日)	手術日			手術後3日迄	手術後7日迄	その後
			手術前	手術中	手術後			
食事	特に制限はありません。つわりのある時は食べやすいものを摂りましょう。	朝は絶食でお越し下さい。水分も摂れません。 処置終了後は食事ができますが夜10時以降は何も食べずに休みましょう。	朝は絶食です。水分も摂れません。 	手術が終わり目が覚めて、水分から摂ってみて、吐き気が無ければ、食べやすいものを少しずつ摂ってみましょう。		特に制限はありません。		
お薬		抗生物質や、ゆっくり休めるように睡眠剤がです。薬剤師がお渡ししますので分からない点はお尋ね下さい。	手術前に麻酔や手術の副作用防止のための筋肉注射をします。	麻酔の静脈注射をしますので、痛みの心配はありません。	子宮収縮を良くするためのお薬がです。	薬は無くなるまで服用しましょう。 		
検査・処置	手術に必要な血液検査や心電図をとります。検査結果は入院日にお知らせします。 	尿検査や、血圧測定があります。手術室の看護婦がお迎えにあげます。待合いでお待ち下さい。 本日は軽い麻酔をして、手術室で子宮口を広げるための処置を行います。手術時間は約3～5分ほどです。処置終了後看護婦がお部屋にご案内します。		手術は約10分程度ですが麻酔の覚めるのは個人差があります。	手術終了後看護婦が、定期的に伺います。麻酔が覚めたら1度トイレに行き、ふらつきもなく、出血など異常なければ退院出来ます。	手術後3日目に医師の診察を受けましょう。 	手術後7日目に診察を受けましょう。	
説明・指導	入院同意書・手術同意書をお渡しします。書類は記入漏れの無いようにしましょう。洗面用具、着替えのパジャマ、生理用ナプキン等をご用意下さい。	書類を受付に出してお待ち下さい。 			手術後は出血が4～7日間あります。痛みが強い場合はお申し出下さい。	次の生理は手術後1ヶ月位で始まります。基礎体温をつけるなどして、避妊に留意しましょう。 		
安静度	特に制限はありませんが、ゆっくり休んで体調を整えておきましょう。 	ベッド上で静かに休んでおきましょう。処置後は院外への外出等は出来ません。 			本日はベッドで安静にしましょう。 	3日目の診察迄はなるべく安静にしましょう。	日常生活は制限はありません。旅行・スポーツ・SEX等は2週間したらOKです。	
清潔	シャワーや入浴はできます。	シャワーや入浴は出来ません。	シャワーや入浴は出来ません。 			シャワーOK 	出血が止まれば入浴できます。	
その他	検査費用については、会計でお尋ね下さい。	朝8時30分頃に書類の確認と、お部屋の希望を伺いますので、病院にお電話下さい。 06-6722-4771	手術前後は回復室で休んでいただきます。お荷物は整理してお待ち下さい。	退院されるときは、会計に寄ってお帰り下さい。			心配な点、不安な事は相談コーナーもあります。ご相談下さい。 相談コーナー Tel 06-6721-8172	

流産の原因は

早期流産は子宮内で胎児が死亡するために起こるのですが、その50～70%は胎児の染色体異常によるものとされています。精子と卵子は23本ずつの染色体を持ち、これらが受精して46本の染色体を持った胎児が成長していくのですが、何らかの理由で染色体に異常が生じ47本になったり45本になったりすることを染色体異常と呼んでいます。染色体異常の99%は胎児期早期に死亡し、流産となるのです。その他にも胎児因子、母体側因子(子宮異常・自己免疫疾患・タバコ・アルコール等)、男性側因子、夫婦間因子によるものとされていますが、原因不明のことが多いのです。

症状は

最も多いのが、性器出血と下腹痛です。その他、おりものが多くなった、なんとなくお腹がはる、重く感じる等があります。また、まったく症状のないこともあります。

すべてが流産につながる訳ではありませんが心配なら受診して下さい。

診断は

問診・内診・膣鏡診などの一般的診察と共に、経膣超音波による診断が中心に行われます。経膣超音波検査により、胎児が死亡している、すでに胎外へ排出していることを確認し、診断は行われます。最近、妊娠診断薬が市販され、経膣超音波を行うことで性器出血や下腹痛等の症状を呈する以前に胎児が死亡していることを発見し、妊娠の継続が不可能なことを妊婦様に伝えることが多くなっています。

流産と診断されたら

子宮内容除去術または内膜搔爬が行われます。お産の経験のない方は、一泊入院していただきます。

当院の流産手術時のスケジュールを表に示しました。

今後の妊娠について

早期流産の大部分は偶然的に起こるもので、ほとんどの方が次回の妊娠はうまくいくものです。出来れば基礎体温をつけながら2～3回の生理をみた上で妊娠するようにして下さい。尚、3回以上の流産を繰り返す方には習慣性流産としての精査をおすすめしています。また、専門医への紹介も行っています。

流産は誰にでも起こる可能性のあるものです。あなただけの経験ではありません。流産という辛い試練ではありましたが、妊娠していたことはまぎれもない事実です。どんな辛さも必ず時間とともにいえていきます。自信を持って前向きに次の妊娠を迎えて下さい。